

第5回 京都駅南口駅前広場エリアマネジメント会議 議事要旨

日 時：平成26年9月30日（火） 午前10時00分～午前11時30分

場 所：京都市消防局本部7階作戦室

出席者：別紙のとおり

- 議 題：1 貸切バスショットガン運用実験報告（閑散期）について
2 タクシーショットガン運用実験報告（閑散期）について
3 繁忙期ショットガン運用実験について
4 その他

1 貸切バスショットガン運用実験報告（閑散期）について

（資料に基づき事務局から説明）

（1）各委員からの意見

- 社会実験の目的は、バスプールからの溢れ出しを少なくすることであり、実験の前後で比較できるようにデータを取ってもらいたい。
- 運用方法について、基本ルールをしっかり作り、イレギュラー時への対応についても検討を行う必要がある。
- 完成形の運用形態を見据えて、工夫の余地、人員配置や人手の確保等の課題について検討していく必要がある。
- 繁忙期は、予約枠を大幅に上回る予約が入ることが予想されるため、何らかの対応が必要である。
- バスプールからの溢れ出し対策は、利用時間の短縮だけでは難しく、容量不足を解消することが一番の解決策である。
- ピーク時に対するバスプールの容量不足は、南口駅前単体で解決できる問題とは限らず、公共交通システムの構築、鉄道会社との協力など、様々な方法を検討していくことが重要である。

（2）とりまとめ

- 限られたスペースで効率的な運用ができるよう検討する必要がある。
- イレギュラー時の対応は、起こりうる状況を考え、対応方法を検討する必要がある。

2 タクシーショットガン運用実験報告（閑散期）について

（資料に基づき事務局から説明）

（1）各委員からの意見

- 八条通への溢れ出しもなく、実験として、非常に良い成果と言える。
- 閑散期は、うまく回転できたが、繁忙期は、乗客を待たせている状況で、鴨川西ランプまで移動しなければならないのなら、非常に利用しづらいものになるという意見がタクシー乗務員から出ている。

- 新幹線の到着時などにタクシーの利用需要が急増することもあるので、駅前プールのタクシーが不足しないように、第2プールからの送り出しをお客の利用に合わせる形で検討しなければならない。
- 利用需要の急増に対する対応として、駅前までの移動に長時間を要する場所では難しいと思われる。
- ハード、ソフト整備に合わせ、タクシー乗務員のマナー向上のためのルール作りが必要である。
- 利用ルール違反は、ペナルティを与える方向で検討していくべきである。

(2) とりまとめ

- 繁忙期は、タクシー利用者が多く、ショットガンを行うことにより、乗客を待たせることのない様、運用方法を検討する。
- タクシー乗務員のマナー向上を含めたショットガン運用に向けてのルール作りを行う。

3 繁忙期ショットガン運用実験について

(資料に基づき事務局から説明)

(1) 各委員からの意見

- 繁忙期実験前に、タクシー乗務員への周知を強化してもらいたい。
- タクシーショットガンの切替時については、切替時のお客への対応や乗務員、公平性が重要である。
- 貸切バスの実験では、第2プール到着から駅前プール出庫までが記録として残るので、貸切バスの動きの理想形が算出できるのではないか。

4 その他

(1) 各委員からの意見

- バスプールの予約枠については、利用時間を20分に設定し、枠を10分毎にずらし半分ずつ入れ替えを行っていくことで、交通処理がうまくいくのではないか。
- 乗降客の待機スペースの容量についても、十分検討する必要がある。